

鵜沼海岸五丁目水害シナリオ 2 (改10.13収録用)

台風二十二号上陸の時間 二〇××年十月九日 十九時過ぎ

上陸地点 神奈川県相模湾沿岸

台風の勢力 大型で強い台風(ストーリー開始時点)

中心付近の気圧 九百六十ヘクトパスカル(ストーリー開始時点)

中心付近の最大風速 秒速三十五メートル(ストーリー開始時点)

今後の予想 関東南部に夕方から夜にかけて上陸の見通し。上陸後、台風は北

北東に進むが、勢力は衰える見込み。一〇日〇時には、東北地方南部に達する見込み。湘南地域は台風の上陸前後にかけて、一段と暴風が強まり、非常に激しい雨となる恐れがある。

洪水予測地区 鵜沼海岸五丁目町内会(二〇〇四年台風二十二号で浸水被害発生)

町内会役員召集 自主防災本部を鵜沼伏見稻荷神社に設置 十五時〇〇分

天候 台風上陸直前で、風雨が強まる。夕方くらいから暴風域に入る。

課題 町内会では、先日の会合で検討した自主防災本部を立ち上げたが、ほ

とんど検討課題は出来ていない中で、どう取りまとめて行くのか手探り状態で、出来る事から取り組みようと混乱している。

状況設定

気象庁の台風情報や警報の発令を受けて、早めに町内会長が自主防災本部を設置。前回の会合の課題の内、浸水被害にあった地区へ本部開設の通知を配布することから活動を開始するが、台風が上陸して水がはじめてから本部に問い合わせが相次ぎ、役員はその対応に追われる。浸水被害が報告されはじめ、それに伴い救助の依頼も増えて、役員達はパニック状態になる。

【ストーリー】

登場人物

水上 町内会長で地元の古株、洪水の被害経験はないが、町内の被害は何度も見ている。全体のまとめ役。

藤橋 副会長で世話好きな主婦。洪水の被害経験あり。(前回床上浸水)

岸川 会計係りで銀行の女子事務員。几帳面、何事も事務的に割り切っていてきばき行う。洪水の被害経験はあり。(前回車水没)

高井 監査役で不動産屋、男気はあるが、話がオーバーで一才いい加減。洪水の被害経験はない。

川端 役員で飲食店経営、心配性な男性、おとなしくてぼそぼそ話すタイプ。

河野 洪水の被害経験はあり。(前回店内浸水)

岡部 役員で証券会社部長。自我の強い男性、水害対策についての提案者。

岡部 洪水の被害経験はあり。(前回新築家屋の床下浸水、外車水没)

岡部 役員で民生委員。女性、町内のご意見番的存在。洪水の被害経験はなし。

白鳥 役員之父の代わりに参加した若者、災害ボランティアの経験がある。

山川 本部に集まった住民

その他住民多数

浅田家の妻・真央・信成 伊地野(独居老人) 山田(妊婦)

吉井(個人タクシーの運転手) ナレーションの声

【ナレーション】

臨時の役員会から一日たった九日の午後。朝から雨は、突然激しく降ったりやんだりを繰り返しています。空は黒い雲に覆われ、渦を巻くように流れていきます。学校は午前中で休校になりました。水上会長は自宅の居間で、テレビの天気予報を見ていましたが「大型で強い台風二二号は、今日の夕方から夜にかけて、関東南部に上陸する見通しです、これから関東地方は午後六時ごろから未明にかけて、陸上では二十から三十メートル、海上では二十五から三十五メートルの暴風となり、雨量も五十から七十ミリの豪雨が予測されます。」と言うアナウンスの途中で、副会長の藤橋さんに電話をかけます。

水上 もしもし、藤橋さんですか、水上です。

藤橋 (電話の相手の声) ああ、会長さん、台風情報見ました？

水上 ええ、それで電話したんですが、一昨日話し合った自主防災本部を設置しようと思うんですよ。役員さんに連絡網で午後三時に伏見稲荷に招集をかけてもらえませんか。

藤橋 分かりました。でも河野さんの話しが本当になっちゃいましたね。

水上 まったくね、ひどい事にならなけりゃいいんだけど。私は本部設置の通知をコンビニでコピーしてから神社に行きます。

藤橋 もう通知文が出来たんですか。

水上 河野さんが作ってくれたんだ。なかなかよく出来てるよ。配布するの

に百枚ぐらいあればいいかな。

藤橋 そうですね、大丈夫だと思います。配るのなるべく大勢集まっても
らえるよう連絡します。

水上 ありがとう、そうしてもらえると助かる。よろしくお願いします。で
は後ほど。

【ナレーション】

午後三時、伏見稲荷神社集会所には 藤橋副会長と役員の川端がきています。白
鳥と友人数名が机を並べて本部作りの準備をしているところに、会長の水上がや
ってきました。

(引き戸を開ける、ゴーツという強い風の音、戸を閉めると小さくなる)

水上 やあ、皆さんご苦勞様です。

藤橋 あら、会長さん。

水上 コンビニで通知のコピーをとるついでに、昨日はなしに行ったスーパ
ーと江ノ電バス車庫に寄ってきたんだが、どちらも本社からまだ回答
は来ていないといわれてね。

白鳥 そうでしたか、残念ですね。で、通知のコピーって浸水想定地域に配
布するやつですか？もう出来てるんですか！

水上 河野さんがつくってくれたんだよ。

白鳥 僕は、本部で援助依頼の電話を受けたときに必要事項を記入する、記
録用紙を作ってきました。

水上 それはいいな。

藤橋 さすが若い人はやるのが早いわ。

白鳥 コピーは何枚ぐらいあるんですか。

水上 とりあえず百枚ほどとってきたんだ。

白鳥 今、雨がやんでるから、仲間で手分けして配ってきます

川端 配る家は分かっているのかい？

白鳥 浸水想定地区を高井不動産の住宅地図に落としてきました。本部用に
大きくしたのもあります。

藤橋 さすが若い人はやることに無駄がないわ。

水上 藤橋さん、感心ばかりしていないで、水位の情報提供依頼のほうは手
配した？

藤橋 ええ、貝塚さんと魚津さんのところへは頼んできました。ああっ！コ

ンビにはどうでしょう。岸川さん頼んであるのかな？

水上 コピーをとりに行ったとき店長に聞いたら承知してたよ。

白鳥 じゃ僕たち行ってきます。それと自動車がある家には早めに移動するよう声をかけてきます。

水上 ああそうだ、私の携帯番号教えておこう。

白鳥 僕たちのはメモに書いて置いてあります。

水上 足りなくなったら電話してくれれば作っておくから。じゃ気をつけてお願いしますよ。

白鳥たち「はい」といって出てゆく。

水上 お集まりの皆さん、ちょっと手伝ってください。神社の宮司さんとは親子電話になっているから、誰か行って子機をかりてきてください。

こっちの壁に地図を張ってください。あと車があれば二人くらいで防災倉庫から、懐中電灯や毛布など、ともかく必要と思われるものは何でも持ってきてください。

川端 私、ミニバンで来ますから行ってきます。

水上 お願いします。誰か川端さんと一緒に行ってください。

電話が鳴る。藤橋が受話器をとる。

藤橋 もしもし、はい自主防災本部です。ああ、魚津さん、ええ、ええ、何ですって！川のそばで遊んでいた子供が見えなくなった！傘が置いて

あるの、ちよつと待って。会長大変！

水上 川のどの辺なんだ！

遅くなりました。どうしたんです、何かあったんですか？

河野 おお、河野さん。川のそばで遊んでいた子供がいなくなったって言うんだ。

藤橋 (魚津さんと電話で) はい、はい、水門？ええ、江の電バス車庫の裏？あそこか。行ってみよう。念のため消防と警察に連絡してください。

わかった。すぐ連絡する。(携帯で話す) もしもし、南消防署の鵜沼出張所ですか、こちら鵜沼海岸五丁目町内会の水上です……

(会長の話にかぶさるように) 魚津さん、いま河野さんがそちらに行きます。ええ、もう少し様子を見てみてください、お願いします。(電話を切る) 学校は午前中で休校になったんだって。親がきちんと注意しなけりやだめよ、こんな日に外に遊びに行かせるなんて。(間) ああそうそう、記録しておかなくちゃ。

雨強く降り出す。ガラスと引き戸を開けて岸川が飛び込んでくる。

岸川 わーっ、また降ってきたよ。

藤橋 ほんとだ！

水上 いやいよ来たな、子供たちはどうなったんだろう。河野さんから連絡はまだかな。

電話の音。藤橋が取る。

藤橋 もしもし、自主防災本部です。あっ、河野さん、どうでしたか、会長

も心配してます。ええ、無事に保護した！よかった。

水上 無事だったのか！

消防が家まで送っていくそうです。

よかった、よかった。

何かあったの。

引地川で遊んでいた子供が見えなくなったって、魚津さんから電話があったの。

岸川 それで、無事に保護されたってわけね。事故にならなくてよかったけど、無責任な親がいるものね、こんな日に遊びに出すなんて。

藤橋 私もさっきそう言ってたところ。

テレビから最新の台風情報が流れる。

「台風二十二号の接近に伴い、関東地方や伊豆諸島では雨風が強まってきました。海上は大しけで、今夕六時ごろに台風が上陸する予定の神奈川県江ノ島港では防波堤に寄せる高波が波しぶきを上げています。台風は引き続き北北東に進む見込みで、関東地方は未明まで暴風圏内に入ります。そのため、暴風や高波に警戒が必要です。また、一時間に五十から八十ミリの非常に激しい雨が降る恐れがあります。雨量がこれまでに二百五十ミリを越える地域もあり、今後二十四時間に予想される雨量は、多いところで三百から四百ミリの見込みです。土砂災害、河川の増水・氾濫、低地での浸水、海岸付近では高波に厳重な警戒が必要です」

ニュースの間に、不動産屋の高井と子供を救助に行っていた河野が引き戸を勢いよく開けて飛び込んでくる。

高井　まるでバケツの水をぶちまけたようだな。

河野　傘なんか役に立たない。あの後、日之出橋から竜宮橋のところまで様子を見に行つたもんだからびしょ濡れだ。

水上　大変だったね、着替えは持ってきてるのかい。

河野　用意してきてます。合羽を着ていきやよかった。

藤橋　で、どんな様子だったの、子供たち。

河野　いま報告します。一人の子の傘が飛ばされたんで、それを追いかけて

日之出橋のところまで川に下りようとしていたんです。会長の電話を受

けた出帳所の消防士が来る途中で見つけて保護したんですよ。かなり

増水してましたからね、危ないところでした。

藤橋　よかった。ホツとしたわ。

水上　魚津さんが川を見張っていてくれたからね

河野　本部を立ち上げたから連係プレーが出来たんですよ。

藤橋　そうですよ、本部を作つて大正解ですよ。

水上　まあまあ、これからどんなことが起こるか、ともかく準備不足だから

ね、どこまで対処できるか心配だよ。

引き戸を開ける音、川端達が防災倉庫から物資を運んでくる。

川端　役に立ちそうなものを適当に持ってきました。下ろすのを手伝って

ください。

岸川　ハイ、手伝います。うわ、この雨じゃ濡れちゃうわよ。車をもつ

と寄せられない。

水上　よし、みんな手伝ってくれ。

高井 川端さん、途中の道路状況は？

川端 かなり水溜りが出来ていたけど、まだ車は走れるよ。

河野 竜宮橋から中道を通ってきたんだけど、集水マスが詰まっているのか雨水が噴水みたいになってた。

藤橋 引地川が増水すると流れていかないのよ。

高井 この前の晩見て回ったときも何箇所か水の出てる場所があったんだけど、まだ役所に連絡してないんだよ。

川端 確か、誰かさんが役所に掃除させるんだって言ってましたけど。

高井 すまねえ。昨日はいろいろあってよ。

水上 役所だってこの台風で大変なんだ。連絡したってすぐには無理だよ。

引き戸を開け閉めする音。岡部と白鳥たち若者が帰ってくる。

岡部 一人暮らしのお年寄りのところを回ってきたから遅くなっちゃいました。

水上 そりやどうもご苦労様。

岡部 伊地野のおじいちゃんちいつも床上浸水でしょ、早めにセンターに避難したらって言ったんだけど頑固でね。何かあったらここに電話

水上 してくれて、お隣にも頼んできたんですよ。

白鳥 まだ水が出る訳じゃないんだからしょうがないよ。

水上 ただいまもどりました。

白鳥 やあ、ご苦労さん。通知文足りたかい。

白鳥 はい、どうにか間に合いました。アパートやマンションは一階の人にだけ配りました。

水上 それでいいんじゃないか。では、白鳥君たちが帰ってきたので、班分けをしようと思う。通知文が配られたのでそろそろ援助要請が来るかもしれない。その時は三人から四人が一組になって行動する。役員さんがリーダーになってください。一班は河野さん、二班は高井さん、三班は私。山川さんたちと白鳥君のグループはそれぞれの班に分かれてください。懐中電灯やロープなどの必要な道具は川端さんから受け取ってください。

河野 会長はここにいたほうがいい。三班は山川さんをお願いできませんか。
山川 いいですよ。会長は本部で状況を把握して指示を出してください。
水上 分かりました。では山川さんをお願いします。

高井 道路に水があふれる前に、マンホールのふたを開けて地下に水を流し
ちまえばいいんだ。

岸川 だめよ、車が通れなくなっちゃう。

白鳥 ふたの外れたマンホールに人が落ちて亡くなった事例もありますから
やめたほうがいいです。

藤橋 高井さんのアイデアは不採用。

岡部 不動産屋なんだから、もっと勉強しなさいよ。

高井 一言いっただけで、何でこんなに言われなきやなんないんだ。

水上 これから台風は本格的になるから、外に出た班も情報が入らないと危
険な状態になる、どうやって台風情報を知らせたらいいかな。

白鳥 携帯電話でも天気予報サイトや行政のホームページで防災情報が見れ
ますから大丈夫ですよ。

山川 私の携帯でもできますよ、あまり利用したことはないけど。

水上 へえー、携帯でそんなことも出来るのかい。

岸川 さあ、さあ、みなさん。一息ついたところで、今のうちに腹ごしらえ
しておいてください。おにぎり、買ってきてありますからね。

【ナレーション】

午後五時三十分過ぎ、雨風ともに強まってきました。自主防災本部では、しばらくの間、食事と雑談で和やかな雰囲気になりましたが、台風が関東直撃を報じているテレビニュースが流れたり、それと重なるように神社前の鵜沼新道を、藤沢市の広報車が強風波浪洪水警報を告げながら通り過ぎてゆくと、みんなの顔は引き締まり、緊張感が高まってきました。さつき河野さんが通ってきた、中道にある暗渠の集水マス付近の道路は、浸水し始めています。そのすぐそばの浅田家では、妻が不安げに会社にいる夫に電話をしています。

浅田 妻 ねえ、あなた。早く帰れないの、こっちはすごい雨と風なのよ。ええ、
仕事だつてことは分かるけど。えっ、信成、あの子中二なのよ。だめ
よ、役に立たないわ、自分の部屋でゲームしているんだもの。

真央 ねえ、ママ、ママ。

浅田 妻 真央ちゃん、ちよつと待っててね。いまパパとお話中なの。真央も不
安なのよ、ちよつと代わるね。はい、真央ちゃんパパがお話したい
つて。

真央 パパ。うん、真央いいこにしてるよ。うん、少し怖い。パパ、真央ん
ちの玄関おもしろいんだよ。お靴やサンダルがお魚さんみたいに泳い
でいるの。

浅田 妻 ええっ！（電話をとりあげて大声で）あなた！早く帰ってきて！（電話をガチャンと切って、あわてて玄関へ行く）いやだ！もうここまで水が来てる！信成！信成！

午後六時二十分 浅田家から救助依頼の電話が入る。岸川が受ける。

岸川 はい、自主防災本部です。えっ、玄関まで水が来ている。落ち着いてください。お名前と住所を・浅田さん、十番十号ですね。

水上 水が出ていた集水マスの近くだ。

岸川 幼児と中二のお子さんと三人だけなんです。二階家ですか？では皆さんで二階へ避難してください。ええ、今から役員が行きます。

河野 私の班が行きます。みんな準備はいいね。では、行ってきます。

水上 お願いします。気をつけて、無理しないようにね。

河野班それぞれに「はい」「分かりました」と返事をして出てゆく。

【ナレーション】

午後七時 台風が相模湾から関東地方に上陸しました。当初の予想より少し遅れましたが、勢力は少しも衰えていません、藤沢市は完全に暴風圏内に突入しました。風雨が強まる中、自主防災本部には新たな救援依頼の電話が入りました。

藤橋 はい。自主防災本部です。

山田 もしもし、私十三番十三号の山田ですけど。

藤橋 はい、山田さんどうしました。

山田 夫がまだ会社から帰ってこれないんで、車を移動したいんですが、妊娠八ヶ月で小さな子供がいるので、動きが取れないんです。今のうちに移動してもらえないでしょうか。

藤橋 山田さんのうちは大丈夫なんですか。

山田 うちは一メートル近く高くしてありますから大丈夫です。

藤橋 会長さん、十三番の山田さんから、妊娠してるし子供が居るので車を移動してほしいって言ってるんですけどどうします。

水上 十三番ていうと、河野さんたちが行っている所の近くだな。川端さん、様子を見に行ってももらえるかどうか、携帯で河野さんに聞いてみてくれないか。

川端 はい。(携帯をかける)

藤橋 山田さん、折り返し連絡しますから電話番号を教えてください。はい、はい、わかりました。少々お待ちくださいね。

川端 もしもし、河野さん、そちらの様子はどうですか。

河野 浅田さんのところは二階に避難してもらってます。でも、この近所には何軒か飲食店があるので、そっちが大変です。もう一斑来てもらえませんか。

川端 会長。あの近所の飲食店にも水が入ってるそうで、もう一斑来てほしいそうです。

高井 よし、俺の班が行こう。山田さんのところも寄ってみるよ。

川端 河野さん、高井さんの班が行きます。よろしく。(電話を切る)

藤橋 じゃ、山田さんに連絡しときましょう。(電話をかける)

水上 いくら頼まれたからといっても、移動中に事故でも起こしたらまずいからな。

高井 状況に応じてやってみるよ。

水上 高井さんの判断に任せよう、くれぐれも気をつけてな。

高井 OK、まかせとけて。さあ、行くぞ。(高井班出て行く)

テレビの台風情報では、暴風雨が激しくなっているので、危険なので外出しないよう警告している。電話が鳴る。

藤橋 はい、あっ、セブンイレブンさん。えっ、歩道のところまで水が来ている。わかりました、引き続き様子を知らせてください。はい、ありがとうございます。

水上 すごい降りだからな、これは思ったより浸水が早いかもしれない。引地川は大丈夫かな。

岡部 伊地野さんどうしているか心配だから、電話してみるわ。

水上 様子を確かめるのはいいいことだ。必要なら山川さんの班に行ってもらおう。

岡部、電話をかける。呼び出し音がなり続けるが相手はなかなかでない。

岡部 どうしたのかしら、出ないわ、いるはずなんだけど。(電話がつながらる) あっ！伊地野さん！岡部です。どうですそちらの様子は、大丈夫ですか？

伊地野 おう、岡部さんかい、大丈夫だよ。

岡部 水はどうです、どこまでできてますか。

伊地野 床下ぐらいかな、上まで来たら机の上にも乗っかってるよ。

岡部 だめよ！今度の台風はいつもと違うわ、すぐ避難して。

伊地野 いいよ、今までだってそうやって来たんだから、心配ねえよ。

岡部 お願ひ、今行きますから、身の回りのものだけ用意してセンターのほうに避難して。

伊地野 余計なお世話だ、家にいる。(電話を切る)

岡部 もしもし！もしもし！切っちゃった。頑固なんだから、私行ってきま

藤橋 行くって、何処へ？

伊地野さんちですよ。いくら言っても避難しようとしません。

藤橋 あの頑固だからね、でも不思議よね、相性がいいっていうのか、いつも病院まで送り迎えしてくれる、吉井さんのことは聞くのよね。

岡部 吉井さんて？

藤橋 タクシーの運転者さん。

岡部 何処のタクシー会社なの？

藤橋 個人タクシーよ。

岡部 電話番号知ってる？

藤橋 何度か利用したから、携帯に入れてあるんだ……これよ。

岡部 みせて、かけてみるわ。

藤橋 タクシー呼ぶの？

岡部 吉井さんをお願いして、説得してもらおうのよ。

岸川 それはいい考えだわ。

岡部 (電話をかける)もしもし、吉井さんですか？

吉井 はい、吉井です。

岡部 実は伊地野さんのうちが浸水してるんですが、いくら言っても避難してくれないんです。吉井さんから話してもらえば、云う事を聞いてくれるんじゃないかと思ってかけたんです。

吉井 ああ、そういうことですか。分かりました。今から、そちらに向かいます。

岡部 ありがとうございます。(電話を切る)来てくれますって。
岸川 よかったじゃない。

【ナレーション】

午後八時、テレビで台風による各地の被害状況が報道されています。江ノ島港からの中継では、暴風雨に吹き飛ばされそうになりながら、若いアナウンサーが。「こちら台風の上陸地点に近い湘南海岸江ノ島港にきています。防波堤に寄せる波が砕けて白い壁のようになって乗り越えてきます。雨も激しく降っておりゴーツという音とともに吹きつけてくる強風に立っているのがやっとです。江ノ島港から中継でお伝えしました。」という、現地レポートが放映されています。

水上 今が台風のピークだろう。これ以上水が出たら私たちじゃどうにもならない。伊地野さんのことは消防にも知らせておこう。岡部さん、場所はどこだい。

岡部 河野さんたちがいったところより、もっと鵜沼新道の信号よりなんですよ。細い道の奥なので分かりづらいんです。やっぱり私が行かないと。
水上 いや、ここは消防に任せよう。

吉井 遅くなりました、吉井です。

岡部 ありがとうございます。伊地野さんちの近くは腰ぐらい浸水しているんですって、あのうち古いし平屋なんで、逃げ場が無いんですよ。
吉井 それに爺さん頑固だし。早いとこ行ってきましょう。

山川 一人では危ない。私たちの班も行きます。会長は消防に連絡してください。さあ、行きましょう。

暴風雨の音、山川班、吉井と出て行く。水上は携帯で消防に連絡を入れる。

水上 もしもし、消防署ですか、こちら鵜沼海岸五丁目町内会の会長の水上です。稲荷橋を渡ったところの伊地野さんという一人暮らしのお年寄りなんです。避難しないので町内のものが説得に行っているんです。ええ、無茶なのは分かっているんですがもう向かっているんです。ええっ！なんですって！引地川があふれた！今、今ですか！それじゃ山川さん達が危ない！お願いします速く行ってやってください。お願いします。

突然電気が消える。

川端 あっ！停電だ！

岸川 ろうそくは何処、懐中電灯で探して。

藤橋 ラジオ、ラジオで台風情報を聞かなくちゃ。

水上 限界だ、われわれの力では、ここまでで精一杯だよ。

【ナレーション】

午後八時三十分、携帯ラジオからは「大型で強い台風二十二号の直撃を受けている神奈川県では、看板や屋根が吹き飛ばされ、各地でがけ崩れや浸水被害が発生しています。電車は運行中止や一部の区間徐行運転をしております。空の便は羽田、成田とも全便運休しているため、交通機関は大幅に乱れています。道路も通行止めが増えています。台風は今夜半過ぎから未明にかけて関東地方を通過すると思われまますので、河川の氾濫、土砂災害には十分警戒してください」と、自主防災本部の不安を煽るように、猛威を振るう台風のニュースが流れています。

その後に「こちらは藤沢市の広報車です。引地川が下流で氾濫しました。鵜沼海岸五丁目の十番から十三番の住民は、いそいで避難してください」という避難勧告を放送しながら広報車が通り過ぎてゆきます。伊地野さんの救出は間に合うのでしょうか。

(雨風の激しい音高まる。消防車のサイレンの音、不安な音楽。)

ストーリー2 終わり

地域発防災ラジオドラマ

現状とドラマ (フィクション) との相違点

● このドラマの舞台となった鵜沼海岸5丁目は藤沢市の西縁を流れる引地川(ひきぢがわ)の流域になります。町内会は二〇〇〇人弱、七〇〇世帯ほどですが、まだ自主防災組織が十分に組織化されていません。このドラマでは町内会の役員が自分たちで判断して自主防災本部を鵜沼伏見稲荷神社の集会所に立ち上げるといふ仮の想定で話が展開していきます。

● ドラマでは町内の浸水が懸念される地区に居住しているある高齢者が、住民の自主避難の説得に応じないシーンが描かれます。水害の場合、浸水がひどくなる前に(できれば浸水の事態が発生する前に)安全なところに身を寄せること

が被害を防ぐ上で大きな意味を持つと思われます。この判断を適切に行うことは非常に難しく、二〇〇九年には兵庫県で自主避難中に流されて大勢の方が亡くなるという痛ましい事故が起きました。ドラマでは避難のタイミングまでは議論されませんが、このドラマをきっかけにして、地域ごとにどうすれば安全な自主避難が出来るか議論していただくことが大切だと考えています。